

第一回 上野松颯会定期能楽会

令和六年四月六日(土) 午後一時始

忠度

上野 朝彦

仕舞

高砂 上野 雄介  
杜若キリ 前田飛南子  
竹生島 篠崎 珠樹

地謡

伊原 昇  
赤井きよ子  
上野 朝義  
田口 亮二

大坪 賢明

江崎欽次朗

松本 義昭  
間小西 玲央

山本 哲也  
成田 達志

貞光 義明

後見 上野 雄介  
野村 昌司

地謡 西野 翠舟  
田口 亮二

渡邊 瑞子  
赤井きよ子  
上野 雄三  
赤松 禎友

〈休憩 十五分〉

狂言

空腕

仕舞

善竹 隆司

上西 良介

後見 上吉川 徹

西行桜クセ 上野 雄三

地謡

西野 翠舟  
赤井きよ子  
前田飛南子  
渡邊 瑞子

巻絹

伊原 昇

上野 朝義

福王 知登

間 善竹 隆平

辻 芳昭 上田 悟  
久田舜一郎 赤井 啓三

後見

上野 朝彦  
野村 昌司

地謡

西野 翠舟 田口 亮二  
篠崎 珠樹 赤松 禎友  
上野 雄介 上野 雄三

附祝言

終演予定 十七時頃

「忠度」

藤原俊成の身内だった僧が須磨に立ち寄り、老樵夫が桜木に花を手向けようとしている。僧が声を掛けると老樵夫は、「これは忠度の墓標だ」と言い、歌を引き合いにその木蔭を今宵の宿にするよう勧め、回向を頼む。僧が回向すると老人は喜ぶ様子を見せながら花の蔭に消える。へ中へ 僧が桜の木蔭で寝入っていると、夢の中に素性不明の武将の亡霊が現れ、『千載集』に「読人知らず」とされた歌の作者を出してくれるよう、俊成の子である定家に伝えてほしいと頼む。武将の亡霊は忠度が都落ち直前に俊成に詠歌を託したこと、岡部六弥太に討たれたこと、箭の矢に付けられていた短冊の歌でその武将が忠度だと判明したことを語り、自分がその忠度だと明かして花の下に帰るのだった。

「巻絹」

諸国から巻絹千疋を熊野に献納せよという勅命が下るが、都の男は本宮近くの音無天神に立ち寄り、ため込到着が遅れてしまう。男は臣下に叱責され、縄で縛られるが、そこに音無天神が憑依した巫女が現れ、縄を解けという。そして、その歌の上の句を男に言わせ、巫女が下の句を付けたので、男は縄を解かれる。天神が巫女の口を借りて、和歌の徳を解くと、巫女は憑依から覚め、天神を慰めるべく祝詞をあげて神楽を舞う。すると再び天神が巫女に憑依し、阿弥陀の垂迹である本宮や薬師の垂迹である新宮の威徳を激しい舞で語り、やがて巫女は本性に戻るのであった。今回の小書では、装束と舞の部分が変化する。

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します。上野松颯会定期能楽会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行っております。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

・来場の際はマスク着用、手指消毒、検温、咳エチケットにご協力ください。  
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合は来場をお控え頂きますようお願い致します。  
・又感染拡大状況により、中止または日程変更となる場合は、ホームページ等でお知らせ致します。

◆「忠度・巻絹」の演目解説講座

定期能をより楽しむために！

「忠度」 2月16日(金)

「巻絹」 3月29日(金)

昼の部 午後1時〜午後2時半  
夜の部 午後6時〜午後7時半

○料金 1,500円

○会場 朝陽会館 大阪市北区天神橋一十七ー八

○お問い合わせ先

朝陽会館 06-6357-0844

または info@choyokaikan.com まで

【第二回上野松颯会定期能楽会】

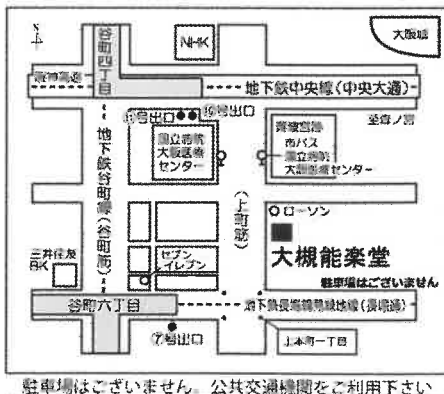
七月二十日(土)午後一時始

能 自然居士 赤井きよ子

能 魚説教 茂山あきら

能 雷電 上野 雄三

能 他 仕舞



○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩番出口を出て南へ約300mまたは谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車⑦番出口を出て北へ約360m  
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ  
※大阪駅から62系統「住吉車庫前」行き乗車